

自己評価(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日々、笑顔・真心・信頼のある介護サービスを提供できるように努め話し合い毎日確認している。		
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩等でお会いすれば笑顔で挨拶を交わし、行事等の参加に声掛けしている。協力も少しずつだが得られるようになってきている。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行事等を通し地域の方々との関わりを持つ機会を多くし、認知症の理解や支援方法等を説明している。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族、自治会長、民生委員、協力医療機関、包括支援センターの代表の方等の貴重な意見は今後のサービス向上へ向けてを参考にし、実践できるように努めている。		
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	グループホーム連絡会、運営推進会議の連絡、市・区役所等とために連絡を取り合うよう努めている。		
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	どのような事が拘束になるのか、何故拘束がいけないのか随時又は会議を通して理解を深める事ができるよう努めていきたい。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全職員が理解できるよう随時話し合いの場を設け、虐待防止に努めている。		

【評価機関】

グループホームみどりの家 自己評価(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修、会議等で管理者は職員と共に権利擁護について知識を深め、学べる機会を作り、活用できるように努めている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には一人一人に対して時間をかけて説明を行い、納得して頂けるように努めている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者や職員は常にご利用者やご家族の意見・意思を傾聴し、改善可能であれば解決に向け対応している。		
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	話し合い等で意見や提案を聞くことにより、出来るだけ反映できるように努めている。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	常に個人個人に対して相談できる機会をもち、働きやすい職場作りに努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・勉強会、研修等への参加を勧めている。 ・研修で得た学びを情報交換し合ったり、参考資料を回覧したりして学びを深めている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他グループホームを招待しバーベキュー大会をする等交流している。又、千葉連絡会等の研修会に参加し、同業者の方々と交流し、質の向上に努めている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

グループホームみどりの家 自己評価(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員が寄り添い傾聴することによって入所の不安を出来るだけ解消できるよう努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	日々の面会が気楽にできる雰囲気作りや、電話での細かい報告をすることで、ご家族のお気持ちや要望等よくお聞きし、極力力添えできるようにして信頼関係作りに努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談された時にご家族、ご利用者の医師等をよく聞き、他に利用できるサービス等もお知らせできるように情報収集に努め、適切なアドバイスができるように努めていきたい。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	多くの経験を積み重ねられている大先輩に対し尊敬の念を持ち、共感し合える関係作りに努めている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族とは常に連絡をとり情報収集に努めている。誕生会催し事には参加、協力を得やすいように環境を整えるように努めている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話を掛けたり、面会に気軽に来れるように努めている。今後はこちらからも手紙を出す等もう少し働きかけていきたい。		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご入居者が話しやすいように環境を整えている。職員が話の間に入り、理解しやすいよう状況を作るようにしている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

グループホームみどりの家 自己評価(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院、退去された際には面会したりして近況を把握又は手紙等で近況を伝えたり、他時事業所との連絡をとり相談・支援に応じている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	全職員がご利用者との日常会話、行動等から多くの情報をつかむ努力をし、アセスメントに参加、ケアカンファレンスを開催している。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご本人、ご家族、周囲の方等から情報収集をこまめに行って、基本情報としてアセスメントを作成している。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	できる事はなるべくご自身でして頂きながら、原状の状態の変化を把握出来るよう職員は努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人・家族の希望、医療関係者との話し合いにより情報を得るとともに、全職員がモニタリングに参加、アイデアを出しながら介護計画を作成している。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づきノートを作成し、介護計画の見直しに活かせるように、個々に記載している。又、毎日の申し送りでは情報の共有に努めている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々のニーズにすばやく対応出来るよう、他サービスの利用等、よりよい視野を持ち、可能と思われることを探していきたい。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

グループホームみどりの家 自己評価(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご家族、地域の意向を基に趣味、嗜好に合った資源活用を心掛けている。今後もより意向に沿える様な資源を提供していきたい。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族の希望に沿ったかかりつけ医に連絡を取り、いつでも相談・医療が受けられるようになっている。		
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員間で適時情報交換を行い、受診時に相談している。助言等は記録に残し、職員間で情報の共有をしている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合、安心してできるように、頻繁にお見舞いに行くようにしている。又早期に退院できるよう医療関係者・ご家族との情報交換に努めている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りに関する指針を示して、ご家族・ご本人と話し合いながら方向性を共有し支援している。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応について、勉強会を行ったり、連絡先を掲示したりしている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火管理者の指導、連絡網の活用、年2回は防災避難訓練を行い、全職員が対応できるよう指導している。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

グループホームみどりの家 自己評価(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人の人としてプライバシーを守り、人格を尊重した対応に心がけている。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや希望を表現することが出来るよう常に傾聴し、本人はどうしたいのか、という事を意識した支援を心がけている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の希望に応じた支援を心がけている。ご本人のお意思で行動ができるように声掛けにも工夫している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	可能な限り、おしゃれが楽しみにつながって行く支援を行って行きたい。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・ご入居者と職員が一緒になって食事準備、配膳、片付けを行っている。 職員も会話を楽しみながら食事をし、折々に外食も計画して出かけている。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量は記録に取り、不足がないように支援している。食事量については、バランスよく不足のないように声掛けしている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。訪問歯科の指導により、歯茎もブラッシングするように声掛けしている。義歯は毎夜洗浄剤を使用している。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

グループホームみどりの家 自己評価(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握し、トイレ誘導や声掛けで支援している。身体状況に合わせ、支援をこまめに検討している。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個人別に便秘薬や十分な水分を摂取できるようにし、適度な運動・食事を配慮し、便秘予防に取り組んでいる。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	午前・午後と時間帯を取り、希望に沿えるように対応している。バイタルを把握することにより、一人一人のタイミングに合わせて入浴できるようにしている。希望があれば可能な限り対応している。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	必要に応じて自室に置いて休息をとられたり、夜間の安眠ができるように支援している。又、ソファや畳コーナーを設置し、いつでも休息できるように支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人別に薬箱に薬の説明書を提示して、職員が確認できるようにしている。又、薬が変更した場合も申し送りをし、情報の共有に努めている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ホーム内での生活が活気があり、楽しい一日が過ごせるように、生活歴や嗜好等を参考にしている。又外出やドライブ等で気分転換をできるよう支援している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出希望は出来るだけ希望に沿えるように支援している。買物・ドライブ・散歩、外食・遠出等計画し、ご家族や地域の方々からも協力を得られるように関係を作っていくたい。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

グループホームみどりの家 自己評価(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	能力に応じ所持してもらっている。又、お金を持っている事で安心する方はお財布を持って頂いている。希望があれば、ご家族からの預かり金を渡せる状況になっている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば時間、タイミング等を見て職員が支援している。ご家族の協力により電話ができるようにご家族の協力も得ている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月、ご入居者と職員が協力して作成し、壁等に塗り絵、季節感のあるもの等を飾っている。又、作品の展示もしている。		
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	二人掛けソファ、置コーナー、リビング等で気のあったご入居者同士が楽しく過ごせることができるように、工夫している。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのものをもってきて頂き配置したり、好みものを可能な限り配置している。ご本人とよく相談した上で、居心地の良い居室を作り上げて行きたい。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご入居者の目線に合わせた環境作りを心がけている。安全を確保し、自立した生活が送れるように工夫している。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所